

入賞作品紹介

12

中学生の部親子賞 入選

読む知る学ぶ E! 新聞

新聞と映像

平田村
小平中2年 上遠野瑞帆さん

私は、新聞を「映像」で見れたらと思います。新聞にのせられている写真が映像になったら、とてもおもしろうだと思いました。小学生の頃、朝の新聞を見て思いついた事です。そして新聞だけではなく、まん画や雑誌もそうやってほしいと小学校の時思いました。もちろんこれは想像で、現実がない事です。ですが「もしこうなったら」と考えると楽

高年齢の方は新聞の細かい文字を読む事は大変だと思えます。反対に若者は特に新聞を好んで読む事が少ないです。多分理由は「文字より映像の方が良い」という「活字離れ」だと考えています。だから「新聞と映像が合体すれば」という発想に結びついたのです。そうすれば新聞が好きではないという人も、もっと気軽に見る事ができると思います。新聞や本をめぐった時、音が聞こえて映像が流れるとしたら、子供も見たくなく思えますし、字が見えなくても大体の事がわかりやすくなります。

が多いという事が長所だと感じます。しかし情報があっても、受ける人次第で良くも悪くもなります。豊富に情報があるからこそ一つの情報を比べ、そして自分で考え

た上で一つの事に対しての結論が出来るのだと思います。今までと同じように、これからも新しいものは多くの人々に愛されるものだと思います。

いない問題が山積みになっていきます。私は仕事柄、地方をまわってきましたが、私が直接見た事と、現在ニュース等で放送されている内容が食い違っているようにも感じました。地方の新聞は事実に基づく内容の記事が掲載されているのが多く見られました。でもそれは震災を受けた地域のみで話であり、被災されていない地域の方々にとっては、どれだけ伝わっているのだろうかと思っています。津波や地震を大きく取り上げるのではなく、被災者の心情や、その後の状況等を細かく載せた内容の記事の方が読み手側に深く伝わるのではないかと思います。

ではいかと思えます。足りない情報だと読み手側の意識の中での風化が激しく進むと思えます。新聞やニュース、ネットからの情報によって被災者側の心情が軽減されるのではないかとも思えます。震災は土地や建物だけではなく、人の心までも破壊し苦しみ続ける要因だと思いました。いつだったか忘れましたが、「福島の再生なくして日本の再生なし」というキャッチフレーズがあったことを懐かしく思います。

せめて私としては震災を風化させない新聞であってほしいと思います。

震災後の新聞

父 上遠野正邦さん

最近、震災に関する内容の新聞が少なくなってきたかと思えます。震災直後は、事細かく伝えられていたような気がしましたが、果たしてそれが読み手側に伝わっているかが疑問に感じら

れました。私は福島の震災だけでなく、北海道の奥尻島や阪神の震災も経験してきたのですが、私は震災を風化させてはならないと強く感じています。いまだに各地方では解決して

いるのだろうかと思っています。津波や地震を大きく取り上げるのではなく、被災者の心情や、その後の状況等を細かく載せた内容の記事の方が読み手側に深く伝わるのではないかと思います。

せめて私としては震災を風化させない新聞であってほしいと思います。